

平成30年度

事業報告書

一般財団法人

東京都高等学校野球連盟

1 事業の内容

(1) 高等学校野球の普及、振興、指導および監督

①年度内に予定していた理事会は計画通り6回を実施し、ほぼ理事会実施前に常務理事会を開催。更に、各部会を開き、審議・検討を行い、健全な高校野球育成を発展に努めた。

②責任教師・監督会にて、野球要項を再度熟読し、中学生の体験入部の取扱いを確認した。また、中体連とも連携を取り、選手権大会決勝戦での始球式も実施した。

③毎年の最重要課題であるフェアプレーの徹底を指導した。具体的には、加盟校の指導者、並びに部員の偵察行為を全面的に禁止した。(ビデオ撮影など)不正があった場合は、責任教師に厳しく指導した。また、バックネット裏付近での試合観戦も合わせて禁止した。学校関係者より申請があった場合撮影許可のリボンを貸与した。ほぼ周知徹底はできつつあるが、次年度も継続的にフェアプレーの精神を伝えたい。

④不祥事件の根絶に向け、責任教師、監督会議の席上で、加盟校への指導を行ってきた。結果は、本年度は56件(日本高野連40件、東京都高野連止まり16件)の不祥事件があり、根気よく加盟校への危機管理の認識を伝達しなければならない。不祥事件に関しては、減少傾向にあるが、根気強く、体罰のない健全な指導を今一度、周知徹底する必要がある。

⑤ホームページは、コンテンツの充実を図り、現在では定着している速報システムなどにより、スピード感を持って情報を提供した。また、様々な連盟関連の連絡事項がホームページより確認する傾向にあり、ユーザーのニーズに合ったサービスを提供できているように感じる。

⑥責任教師会議においては、3校を除く270校が参加。様々な懸案事項を詳細に説明し、理解を求めた。特に本年度は選手権100回大会に向けての記念事業(キューバ海外遠征)についての報告を行った。

(1) 不祥事件の根絶に向けて指導した。特にいじめや指導者の体罰に関しては重点的に説明した。高校野球の理念を今一度再認識させるとともに健全な野球部の運営・管理を指示した。

(2) 部員登録の締切りの期日を守らない加盟校は減少傾向にあるが、まだまだあり根気強く継続的に理解を求めたい。

(3) 第100回全国高等学校野球選手権記念大会に向けて

—東京高野連としての記念事業の説明—

2018年は選手権大会が100回の記念大会となり(公財)日本高等学校野球連盟より各都道府県に記念事業の取り組みを再度確認した。本連盟が企画している7つの項目についてのガイドラインは

① 海外遠征計画 ②加盟校への記念品贈呈 ③100回記念講演—斎藤佑樹—

④指導者研修会講演集の刊行 ⑤スコアブックの電子化

⑥白球譜第7集の刊行 ⑦100回大会記念、連盟70周年記念式典

本年は、計画が順調に進み、スピード感をもって各事業とも恙なく執り行えたように思う。

⑦本年度は北海道日本ハムファイターズの現役投手で東京都の高校野球に影響を与えた斎藤佑樹選手をお迎えして、高校野球指導者にメッセージを頂いた。パネルディスカッション形式にて、当時の回想し、高校野球の様々な思い出をお話頂いた。ご自身もプロ野球の世界も経験し、野球界の様々な問題やこれからの高校野球に必要な思考力など多岐にわたるものであった。明解な語り口と現役プロ野球選手の一言一句には説得力があり、聴衆を魅了し、大盛況であった。

⑧加盟校が270を超え、審判員の確保には本年度も非常に苦勞した。若い世代の審判員の育成が急務である。本年度も春季大会一次予選において、学生審判の導入を実施。しかし、加盟校からは、公式戦の場において一回の講習を受講したものが試合にジャッジをすることに疑問もあり、今年度も受講生が試合にてジャッジすることは控えた。しかし、この学生時代に審判講習会を経験し、将来的に審判員を目指す契機になることを期待している。登録審判員も各大会の度に、審判講習会を実施し、技術の向上に努めた。残念ながらいくつかのミスジャッジもあり、さらなる技術向上と的確な判断力のある人材育成が必要だと実感している。連盟としても、審判員の増員に向け、推薦書の依頼を加盟校に呼びかけた。今後審判部と連携を密にして対策を検討したい。

⑨本年度の事業計画にはなかったが、(公財)日本高等学校野球連盟が高校野球200年構想と題し、野球人口の減少に歯止めをかけるべく、新たな試みを各都道府県に提案した。未就学児から低学年層が野球への関心を持つために「ティーボール教室」の実施を提案。補助金を支給して全国的に展開することを要望した。本連盟も新たに野球普及振興委員会を設立した。数回の会議を経て、加盟校の一次予選会場校を中心として試験的ではあるが「ティーボール教室」を実施した。未就学児や低学年の子供たちには楽しそうにこのイベントに参加していたが、課題も多く見つかった。子供たちの野球離れは、親権者の意向が強いということである。

親を巻き込みながらの事業拡大には、まだまだ検討の余地が垣間見られた。ただ単にものを配るだけの発想では、野球人口の拡大には結びつかないようにも感じられた。手軽さのない野球には経済的にも多くの負担があり敬遠されている状況をもっと精査し、野球道具や販売店も一緒になって取り組む課題のように思える。本年度は、スタートの年となり実施したことに意味を成すように思われるが、次年度以降は、どのようなビジョンと実績評価をふまえて継続的に続けることができるかが大きなポイントであろう。非常に難しい事業の舵取りとなりそうだ。

⑩一般財団法人化に伴い、還元事業として、加盟校へは秋季大会抽選時に背番号を配布。更に秋季大会一次予選時に硬式試合球2ダースを加盟校に配球すると共に、ばらつきが出ていたプラカードを全て作り直し、ケースも合わせて配布し還元事業とした。

(2) 高等学校野球大会ならびに試合の開催及び協力

①平成30年度春季東京都高等学校野球大会

一次予選は、24の会場に分かれ、180チーム（連合チームがあるため）が参加。3月17日（土）～25日（日）で実施。48の代表校が、4月1日（日）からの本大会に出場。本大会は4月1日（日）～14日間。決勝は29日（日）で、96校が神宮第二球場を含め7球場を使用し、開催。優勝校は日本大学第三高等学校（3年ぶり14回目）。準優勝は国士舘高等学校。

②第100回全国高等学校野球選手権記念大会東西東京大会

朝日新聞東京本社と共催で、7月1日（日）に開会式のみを実施。7月7日（土）から30（月）までの23日間、神宮球場をはじめとする、東西11の球場を使用し開催。東東京大会は、二松學舎大学附属高等学校（2年連続3回目）が優勝。西東京大会は、日本大学第三高等学校（5年ぶり17回目）が優勝。両校が東西東京代表として甲子園出場の権利を得た。

※本年は事業計画どおりに100回選手権記念大会の準決勝・決勝より、プレイガイド（チケットぴあ）によるチケット前売りを実施した。理由は、ここ数年、高校野球の人気拡大により、多くの観衆が球場に詰めかけている。特に、準決勝・決勝になると2万人前後のお客様が早朝よりチケットを求めて長蛇の列をつくっている。明治神宮外苑、警備会社、管轄警察、消防とも協議し、安全上の問題を最優先に考え、1万枚の前売りを行った。結果として、お客様にはかなり周知もされており、完売こそしないが、5割強のチケットが売れた。オンラインでのチケットには様々な問題点もあり、現にチケットの違法な転売行為も垣間見られ、対策を施す必要性を感じた。しかしながら、安全の側面からは、球場で問題になっていた狭い場所での列が解消され、余裕のある警備体制を整えることができた。様々な問題はあっても今後も積極的に推進していく事業となった。

③平成30年度秋季東京都高等学校野球大会

一次予選は24の会場に分かれ、250チーム（連合チームがあるため）が参加。9月8日（土）～9月27日（木）で実施。64の代表が、10月6日（土）からの本大会に出場。本大会は10月6日（土）から11日間。決勝は11月4日（日）で、64校が神宮・神宮第二球場を含め8球場を使用し開催。

なお、本年度も東都大学野球連盟と同日開催を実施。東都大学一部二部入替戦初日の11月3日（土）に準決勝を2試合（10：00～、12：30～）、一部二部入替戦2日目の11月4日（日）に決勝戦（12：00～）を神宮球場で行った。【両日とも大学野球は16：00より】また、準決勝・決勝においては、選手権大会同様、前売りによるチケットの販売も実施した。

優勝校は国士舘高等学校（10年ぶり6回目）。準優勝は東海大学菅生高等学

校。

(3) 高等学校野球の調査・研究

平成30年度の指導者研修会講師は北海道日本ハムファイターズ斎藤佑樹選手をお招きして講演をいただいた。パネルディスカッション形式にて当時を回想していただき、思い出深いお話を伺えた。プロ野球の世界に現在所属しているが、高校野球こそ「野球の原点」であったという話や甲子園優勝の秘話など聴衆を魅了する内容となった。学生野球の真の在り方や高校野球を通じた人間教育、これからのアマチュア野球界が目指す指導像など多岐にわたる充実した内容で加盟校指導者は深い感銘を受け、自校の今後の指導に大いに参考となる内容で実りある講演会であった。

(4) 高等学校野球選手、部員などのスポーツ障害予防・健康増進

本年度も医師の導入を行った。選手権大会の準決勝から日本大学医学部附属病院整形外科洞口先生をはじめ、慈恵医科大学附属病院の先生方にもお力添えを得て、試合中の熱中症、頭部打撲、その他のアクシデントを予測して球場でのサポートをお願いし、救急対応の危機管理を実践した。結果的に医師の診断を仰ぐ事故はなかった。また、準々決勝より、理学療法士を球場内に常駐させ、選手のケアをさせた。選手権大会には準決勝より、理学療法士の他に看護師もお願いし、選手のみならず、応援生徒の熱中症対策を行った。生命に関わるような大きな事故もなく、選手の投球禁止などの適応者もなかった。選手・応援生徒の健康管理体制に関しては、引き続き学校と密に連絡をとり安全を第一に対応したい。また、センバツ・選手権に出場する代表校の肘・肩検査は、(公財)日本高等学校野球連盟が指定する病院で検査を行うことになった。東京都の検査指定病院は、帝京大学医学部附属病院整形外科、スポーツ医科学センターで今後も継続的に行われる。

(5) 高等学校野球に関する講習会・研究会の開催

学生審判の講習会を2月18日(日)に実施した。会場校の24校から2名の学生審判を参加させ、基本となるジャッジの講習を開催した。基本的に自校での経験がある参加者が複数いたため、思っていたより高いレベルでの講習内容となった。次年度以降も継続的な取り組みを行いたい。

東京の登録審判員の講習会は3月4日(日)、6月10日(日)、9月2日(日)の3回を実施。審判員の技術向上のために積極的な参加があった。

記録員・アナウンス研修会は、6月23日(土)に実施。朝日新聞社の協力も得て、加盟校の代表校に丁寧に指導した。アナウンス研修は現役のアナウンサーが実技も踏まえて指導し、実践的な放送技術指導を行い、とても実のあるものとなった。指導者研修会は、現役プロ野球選手で北海道日本ハムファイターズの斎藤佑樹投手をお招きして、様々な経験にまつわる貴重な講演をいただ

いた。

(6) 野球を通じた国際交流、国際相互理解の推進

本年度は、100回大会の記念事業としてキューバ海外遠征を実施。渡航期間は、12月15日(土)～26日(水)。高校世代では初の中南米遠征となった。昨年より現地視察、キューバスports省(INDER)キューバ野球連盟、キューバ大使館、外務省、在日本大使館とも密接な関係を保っていたせいか順調に実施まで漕ぎつけられた。現地では、5試合の試合があり、非常に実りある遠征となった。来年度にU18のワールドカップを控えており、キューバもその代表メンバーに近いセレクトメンバーであったのでレベルの高い試合となった。キューバ国内では、優秀な選手の海外流失を避けたいために非常に厳しい管理体制が印象的であった。生活苦を野球によって変えたいキューバの若者の情熱をなに不自由なく過ごす日本の選手がどのように感じるかがこの遠征の大きな趣旨である。目的を達成できたかは今後の彼らの動向を長い目で見ていきたい。また、キューバスports省と野球連盟の多大なる尽力によりキューバ国内では一局しかないTV中継を実施。これも野球が国技ゆえの過剰なまでのご厚意に敬意を表す次第である。また、本年は、日本人がキューバに移民して120周年の記念すべき年となり、在日本大使館が企画する移民120周年祭の最後のイベントにフィックスされ、こちらの事業も盛大に盛り上がった。この高校世代初の中南米キューバ海外遠征は非常に実りのある素晴らし遠征になった。今後も計画的な資金計画と経済的チャンスに巡り合えば是非とも第二回目を実施すべき遠征だと実感する。

U18 アジア選手権が日本の宮崎で9月に実施された。東京都加盟校より日本大学第三高等学校の日置航(3年)内野手が選出された。大会では銅メダルの成績を収め、アジアのひのき舞台で大活躍した。また、当連盟では11月4日(日)に明治記念館において日置君の活躍と功績を讃え、表彰を行った。(代理小倉全由監督)

(7) 高等学校野球に関する関係諸団体との協力・提携

東京都中体連、関東地区高野連、全国九地区高野連、並びに日本高野連とは密接な関係を持ちながら、各行事を遂行した。関東地区高野連とは、様々な意見交換を交わし、有意義な情報交換ができた。また、東京都中体連とも継続的な連携を維持して選手権大会の始球式も中学生に経験してもらっている。円滑な関係を保ちつつ諸団体と建設的な意見を交わし、さらなる関係構築に努めたい。

(8) その他この法人の目的達成に必要な事項

一般財団法人化に伴い、公認会計士指導の元、様々な規則の充実を図った。今後も適宜必要な事項への検討を行う。

硬式 273校 部員数約10,400名
 軟式 73校 部員数約1,500名

硬式部

諸会議の状況

1、加盟校責任教師会議	5月26日(土)	1回
1、常務理事会	2月9日(金)、5月7日(月)、11月19日(月)、	3回
1、選手権運営委員会	5月29日(火)、6月1日(金)	2回
1、理事会	2月19日(月)、2月27日(火)、4月29日(日)、 5月11日(金)8月21日(火)、10月28日(日)、 12月12日(水)	7回
1、選手権委員会	6月12日(火)、6月25日(月)	2回
1、抽選会	2月25日(日)、6月16日(土)、8月29日(水)、 10月1日(月)	4回
1、球場主任会議	2月19日(月)、6月12日(火)、10月28日(日)	3回
1、審判講習会	2月18日(日)、3月4日(日)、6月10日(日)、 9月2日(日)	4回
1、審判幹事会	2月28日(水)、6月5日(水)、8月30日(木)	3回
1、評議員会	2月27日(火)、7月25日(水)	2回
1、監査	2月4日(火)	1回
1、キューバ海外遠征 国際交流委員会	1月30日(火)、5月25日(金) 7月1日(日)、9月4日(火)、 9月25日(火)、10月23日(火) 11月5日(月)、11月7日(水) 11月18日(日)、11月23日(金) 11月25日(日)、12月2日(日) 12月8日(土)、12月9日(日)	14回
1、子ども委員会	4月22日(日)、5月11日(金)、 6月8日(金)、9月27日(木) 10月14日(日)、10月27日(土)	6回
1、開会式検討委員会	5月8日(火)、5月31日(木)	2回
1、記録員アナウンス研修会	6月23日(土)	1回
1、審判割当会	6月23日(土)、8月30日(木)	2回
1、審判員大会中間報告会	7月14日(土)	1回
1、審判員ブロック大会中間報告会	10月4日(木)	1回
1、指導者研修会	12月2日(土)	
	北海道日本ハムファイターズ 斎藤佑樹選手	1回

1、一次予選会場校責任者会議	2月16日(金)、8月24日(金)	2回
1、白球譜編集委員会	1月29日(月)、5月17日(木)	2回

軟式部

諸会議の状況

1、総会	4月8日(日)	1回
1、理事会	1月13日(土)、2月11日(日)、4月8日(日)、 5月4日(金)、6月17日(日)、8月2日(木)、 9月24日(月)	7回
1、指導者講習会	1月20日(日)	1回
1、記録員講習会	2月11日(日)	1回
1、審判講習会	3月21日(水)	1回

本連盟主催大会

春季大会

支部予選：3月下旬

都大会：4月22日(日)、29日(日)、30日(月)、
5月4日(金)、

夏季大会

7月21日(土)～8月2日(木)

秋季大会

支部予選：8月下旬

都大会：9月9日(日)、16日(日)、17日(月)、
24日(月)、